

気候変動適応全国大会

気候変動適応中国四国広域協議会の 令和 6 年度の実施について

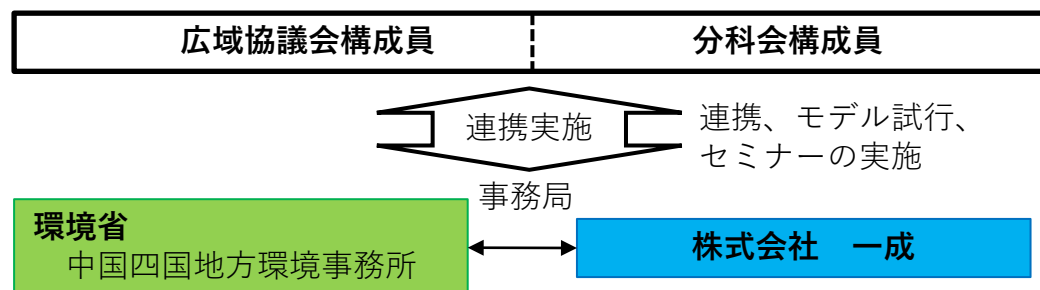
令和 7 年 3 月

中国四国地方環境事務所

気候変動適応中国四国広域協議会のスケジュール等（令和6年度）

活動	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
広域協議会					▲ 8/21 第12回						▲ 2/3 第13回	
気候変動影響把握・ 情報活用分科会				▲ 7/22 第1回					▲ 12/26 第2回			
上記分科会で実施する モデル試行の実施					企画・調整 →	モデル試行の実施 →						
普及啓発活動 (セミナー開催)								▲ ▲ 3テーマ・各1回 「11/18植生とシカ」・「11/22サンゴ等の保全・利活用」 ・「12/21モニタリング・情報共有」	▲ とりまとめ			

【実施体制】



気候変動適応中国四国広域協議会での取組について

◆ 3つの広域アクションプラン

山地・森林等の植生及びニホンジカ等の生態系における気候変動影響への適応

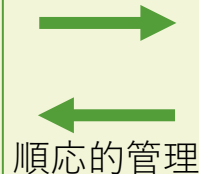
水温の上昇等による太平洋沿岸域の海洋生態系の変化への適応

瀬戸内海及び日本海の漁業等、地域産業における気候変動影響への適応

- ・ 地域の背景及び課題を踏まえ、広域で取り組むことで効果を発揮する適応アクションを選定。
- ・ 適応アクション①及び②が連動することで効果を発揮し、同時に順応的管理を実現。

適応アクション①

将来的な環境変化・魚種変化等
への方策検討と見直し



適応アクション②

気候変動の不確実性に備えた
モニタリング及び情報共有

収集の可能性を実証したモニタリング情報を、水産関係者における広域の気候変動適応に資するものとする必要がある（新たな課題の検討）

R5～

気候変動影響把握・情報活用分科会



「出典：気候変動適応情報プラットフォーム」

「気候変動影響把握・情報活用分科会」について

- ・ 気候変動影響情報の把握・活用に関して協議を行う分科会。
- ・ 研究機関や連携団体等にも適宜参加いただき、実装や順応的管理を行う。
- ・ 広域でのモニタリングデータ等を基に、各地域特性にあわせ、各実施主体が既存施策等の中でさらなる適応策を実施する。

<アドバイザー> ※敬称略

西嶋 渉

(国立大学法人 広島大学学術院教授／
環境安全センター長)

東 博紀

(国立研究開発法人 国立環境研究所 地域環境保全領域
海域環境研究室 上級主幹研究員)

<オブザーバー>

必要時、その他適宜参加いただく

<メンバー>

区分	メンバー
地方公共団体	鳥取県、岡山県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、広島市
地域気候変動 適応センター	島根県、岡山県、広島県、山口県、香川県、愛媛県
地域地球温暖化防止 活動推進センター	島根県、岡山県、広島県、山口県、高知県
地方支分部局	農林水産省（中国四国農政局） 国土交通省（中国地方整備局、四国地方整備局） 気象庁（大阪管区気象台、福岡管区気象台）
研究機関	（国研）森林研究・整備機構 森林総合研究所 四国支所 （国研）水産研究・教育機構 水産技術研究所
その他	高緯度サンゴ群集域気候変動適応ネットワーク

(令和6年7月時点)

<実施体制>

分科会メンバー

連絡調整

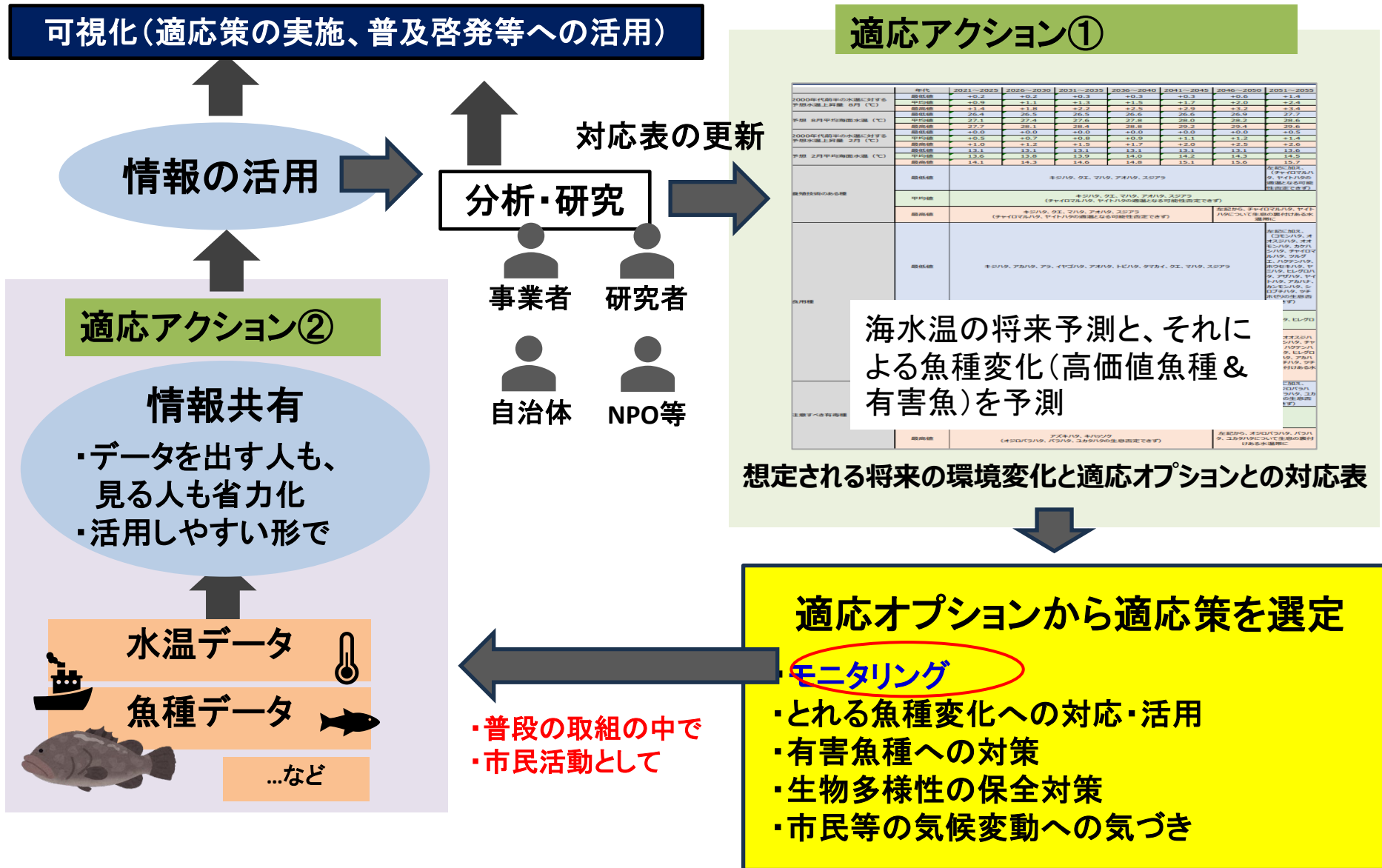
アドバイザー

(事務局)

環境省
中国四国地方環境事務所

(R6年度業務請負)
株式会社 一成

適応アクション①と②の連動（順応的管理）

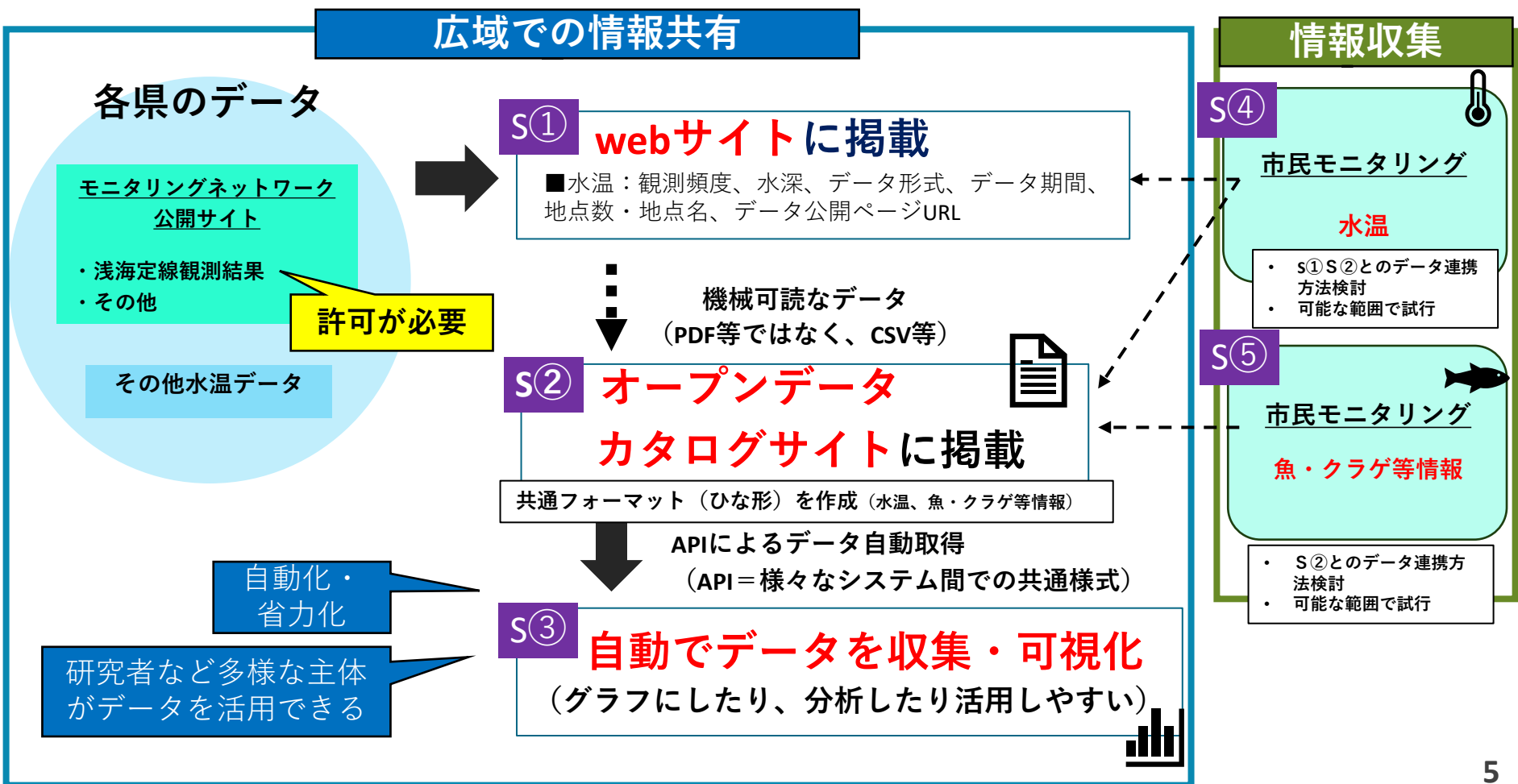


⇒ 水産関係者等における適応行動を促進

令和6年度の取組（モデル試行）概要

水産関係者の気候変動適応に資する、気候変動影響情報を得るため、
まず、モニタリング情報の収集をできるだけ自動化・可視化するモデルケースを作る。
→水温等の情報について、「集約」「分析」「可視化」「提供」の各方法について
面的に小さく一連の方法（下記s①～s⑤）を検討、試行している。

R6年度「モデル試行」のイメージ



令和6年度のモデル試行における達成目標

面的に小さく一連の方法
(s①～s⑤)を検討、試行する

令和6年度の達成目標



- 
- やってみることで課題や便利さが分かる。
 - 取組のアウトプットイメージが得られる。
 - 今後に向けた課題等がわかる。

【次年度以降、期待される効果】

- 
- 次年度以降、取組が広がっていく。
 - 主体的な取組が増える。
 - 取組が継続し、データが蓄積する。
 - 広域の気候変動影響把握につながる。
 - 情報を活用することで、将来的に市民等の適応活動にもつながる。

普及啓発活動（セミナー等の実施）

○目的・実施状況

気候変動適応中国四国広域協議会における取組及び気候変動適応における広域アクションプランの推進、並びに気候変動適応の認知度向上を目的とし、自治体等の関係者と連携してセミナー等を開催した。

大山蒜山周辺地域の植生をニホンジカから 守る広域連携情報交換会

○目的

- 気候変動による積雪減少等に伴うニホンジカの生息域拡大による高標高域の植生等への影響を未然に防止するための、**広域連携によるモニタリングの普及と情報共有**に関する取組を促進する。
- 「山林の植生・シカ等の生態系分科会広域アクションプラン」のフォローアップ。

○対象者

- 植生への影響程度、ニホンジカの生息状況及び捕獲情報を有する関係者等

○開催場所・回数

- 11/18 13:30～16:00
- 対面+オンライン併用
(大山町役場大山支所)



「サンゴの保全・利活用のための 広域連携情報共有」セミナー － 高緯度サンゴ群集域の今、海水温上昇による 海の変化を知る －

○目的

- 瀬戸内海及び太平洋における**サンゴ等の保全・利活用のため広域連携による市民参加型モニタリングの普及と情報共有**に関する取組を促進する。
- 「太平洋の沿岸生態系分科会広域アクションプラン」のフォローアップ。

○対象者

- 漁業関係者、マリンレジャー関係者、一般市民等

○開催場所・回数

- 11/22 10:00～12:00
- 対面+オンライン併用
(サンメッセ香川)



「未来の海を共に見守る -市民参加型モニタリング-」セミナー

○目的

- 瀬戸内海・日本海・太平洋の**水産業における気候変動影響への適応のため、広域連携による市民参加型モニタリングの普及と情報共有**に関する取組を促進する。
- 「瀬戸内海及び日本海の漁業等、地域産業における気候変動影響への適応」のフォローアップ。

○対象者

- 漁業関係者、マリンレジャー関係者、一般市民等

○開催日時、場所

- 12/21 13:30～16:30
- 対面+オンライン併用
(玉野産業振興ビル)



大山蒜山周辺地域の植生をニホンジカから守る広域連携情報交換会

■日時・場所

2024年11月18日(月)13:30～16:00
大山町役場大山支所(オンライン併用)



■参加者(現地48名、オンライン2名)

中国地方(特に大山蒜山周辺地域)のニホンジカの食害等による
植生への影響程度、ニホンジカの生息・捕獲の状況等の情報を有する関係者
(関係行政機関・団体等)

■内容

- ・ ニホンジカの動態と被害事例 (中国四国地方環境事務所)
- ・ 大山蒜山周辺地域の魅力と希少植生 (鳥取県立大山自然歴史館 館長 矢田貝 繁明 氏)
- ・ 中国地方における国有林内でのニホンジカ被害対策等について (近畿中国森林管理局)
- ・ 鳥取県・岡山県におけるニホンジカの生息・捕獲状況 (鳥取県※、岡山県) ※:資料共有
- ・ 大山蒜山地域のニホンジカの分布拡大状況からみたモニタリング体制や対策の課題
(兵庫県立大学 准教授・兵庫県森林動物研究センター 主任研究員 藤木 大介 氏)
- ・ 意見交換

アンケート結果から「新たに取り組みたいこと」の回答が約70%あり、特に自治体関係者から「大山蒜山地区の周囲まで、シカの分布拡大していることが再確認出来た」、「センサーカメラによる定点観測を復活させようと思った。」などの感想があり、参加者が担当地域における対策について考え、取り組むきっかけになったと推察された。また、自治体や専門家による情報提供・情報共有により、今後のシカ対策の連携に向けた機運が醸成されたと思われる。

「サンゴの保全・利活用のための広域連携情報共有」セミナー ー 高緯度サンゴ群集域の今、海水温上昇による海の変化を知る ー

■日時・場所

2024年11月22日(金)10:00～12:00

サンメッセ香川(オンライン併用)



■参加者(現地12名、オンライン31名)

行政・自治体職員、一般市民、環境保全団体、マリンレジャー関係者等

■プログラム

- ・ 適応アクション① 将来予測を踏まえた適応の方針検討と見直し
「浅海域の生態系(藻場、サンゴ群集)の変化と将来予測」
(国立環境研究所 熊谷 直喜 主任研究員)
- ・ 適応アクション② 広域ネットワークによるモニタリングと情報共有
「気候変動による四国南太平洋沿岸のサンゴ群集の移り変わり」
(公財)黒潮生物研究所 目崎 拓真 所長)
- ・ 香川県沿岸域で激減する二枚貝とその要因 ～アサリを例に～
(香川大学 瀬戸内圏研究センター 一見 和彦 教授)
- ・ 意見交換(質疑応答含む)

アンケート結果から「新たに取り組みたいこと」の回答が約74%あり、今回のセミナーをふまえサンゴだけではなく、海への関心を高めることができた。また、海水温や海洋生物への変化に対するモニタリングの必要性についても理解いただくことができた。

「未来の海を共に見守る -市民参加型モニタリング-」セミナー

■日時・場所

- ・ 2024年12月21日(土)13:30～16:30
- ・ 玉野市産業振興ビル(講演のみオンライン併用)

■参加者(現地15名、オンライン20名)

- ・ 一般市民、高校生、行政・自治体職員、環境保全団体等

■プログラム

- ・ 気候変動影響への適応 広域アクションプラン
ー瀬戸内海及び日本海の漁業等、地域産業における気候変動影響への
適応広域アクションプランについてー(中国四国地方環境事務所)
- ・ ICTとモニタリング ～どうやってデータを計測して、活用するのか～
(岡山大学 講師 松田 裕貴 氏)
- ・ 身近な海の変化とこれから海のためにできること
(株式会社邦美丸 富永 邦彦 氏、富永 美保 氏)
- ・ ワークショップ(現地参加者対象)



- 講師(漁業者)から、陸域にあるゴミは必ず海に辿り着き漁業に悪影響があるという紹介があり、アンケートではゴミ対策に取り組むという回答が多く得られた。また、アンケート結果からモニタリングの重要性も共有できた。ワークショップでは、気候変動の適応策として、「現在食べていない魚の調理方法を新たに考える。」など、気候変動の影響への適応について自ら取り組む意見が交わされた。
- ワークショップの後で講師(漁業者)から、「皆さんに海の事を漁師の実体験として感じてもらえるよう発信する良い案が浮かび、とても勉強になった。」との感想を頂いた。

ご清聴ありがとうございました
